

平成 27 年度 消防長「政策宣言」達成状況報告

消防長 野谷 正実

○ 平成 27 年度重要事業

事業名	住宅火災の件数及び死傷者数の減少
目 標	<p>消防関係の諸団体と連携を取り、市民に一般住宅火災の発生原因を周知し、類似火災の発生を防ぐとともに、住宅用火災警報器の未設置世帯への設置促進と現在設置済みの世帯へ機器の維持啓発を図り、住宅火災で死傷者が出ないように努めます。</p> <p>事業所等に対しては、査察や立入検査を随時実施し、防火対策や自衛消防隊の訓練の重要性を啓発して、災害が発生しないよう、また発災時には被害の軽減ができるよう指導します。</p>
年度末達成状況	<p>今年度(H27.4.1～H28.3.31)の火災は、19件発生し、一般(居住)住宅の火災は3件、うち2件の出火原因が「たばこ」でありました。また、住宅以外の火災で負傷者が1名発生しています。一方、工場及び事業所等の火災が12件発生し、施設の老朽化や維持管理が原因の火災が多い状況でありました。</p>
自己評価	<p>火災件数が平年並みの中で、一般住宅火災件数が少なく負傷者も1名との結果であり、市民の皆さんのご協力に感謝しています。消防としては、引き続き火災予防の啓発の努め、特に工場及び事業所等の施設の維持管理について指導してまいります。</p>

事業名	救急出場時の現場到着時間の短縮
目 標	<p>119番の入電から救急車の出場までを、よりスピーディーなものとして現場到着時間の短縮を図ります。併せて、救命率向上に向けて、口頭指導を行う通信指令員や救急現場に出場する救急隊員のスキルアップに努めるとともに、市民が万一の際に応急処置ができるよう救命講習会の受講を働きかけます。</p>
年度末達成状況	<p>入電から現場到着までの時間については昨年と大差はありませんでした。救命率向上に向けての隊員のスキルアップ研修や市民への救命講習は、ほぼ計画どおりに進めることができました。</p>
自己評価	<p>12月迄に現場到着時間の大幅な短縮は図ることができませんでしたが、その後、運用を開始した新通信指令システムの機能と、通信指令員のスキルアップが合わさることにより、現場到着時間の更なる短縮が図り得るものと考えています。</p>

事業名	消防車両、機器及び消防団の維持・強化
目 標	<p>本年12月に運用開始予定の消防・救急無線及び通信指令台のデジタル対応機器への切り替え工事で、緊急時の通信指令業務が滞ることがないように努めます。また、今年度更新予定の消防ポンプ自動車3台についても無線機の更新に間に合うよう整備して消防力の維持・強化を図ります。</p> <p>消防団については、団員の処遇改善やOB団員を再任する機能別団員制度を検討し、環境を整えて、若い人達の入団促進を図り</p>

	ます。
年度末 達成状況	<p>無線及び通信指令機器のデジタル化への更新並びに消防ポンプ車両の更新も年末までに完了することができました。</p> <p>団の報酬等の処遇改善及び機能別消防団員制度(災害支援員)は、3月議会での条例改正を経て平成28年4月1日から運用を開始します。</p>
自己評価	<p>機器及び車両の更新等は予定通り整備することができました。</p> <p>また、消防団の件についても4月から運用しますので、今後若い人達の入団に繋がることを期待します。</p>